

## 週報①

### 広島市医師会臨床検査センター受託分 感染性胃腸炎検出状況

検出菌 ウイルス	2023年												2024年									
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月 ~4日	8月 ~11日	8月 ~18日
カンピロバクター	48	30	46	63	57	67	75	49	29	47	43	65	20	24	38	25	57	50	39	11	9	4
病原性大腸菌	47	37	55	103	120	108	102	56	52	49	80	102	43	61	105	92	79	76	83	12	21 (30)	8
腸管出血性大腸菌	1	1	4	1	0	1	0	1	1	0	0	0	0	3	1	0	1	2	1	1	2 (4)	1
サルモネラ	7	2	2	7	7	13	25	6	12	15	6	9	4	4	2	7	5	8	12	10	10	5
黄色ブドウ球菌 MSSA	15	10	13	14	21	8	12	15	18	21	18	16	6	4	16	4	12	21	11	5	3 (5)	4
黄色ブドウ球菌 MRSA	13	10	14	15	14	10	11	11	9	5	9	16	8	6	12	6	3	10	8	1	2	1
腸炎ビブリオ	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	1	1	2	0	0	4	8	2	1	0	2	0	0	0	0	0	1	3	1	0	0 (3)	1*
ロタウイルス	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0
アデノウイルス	0	0	1	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0
ノロウイルス	14	11	6	1	1	0	0	0	0	0	0	4	9	20	10	3	4	0	1	1	0	0

\* その他は、アエロモナスでした。  
( )は前回集計後に新たに検出された件数を含めて表示しています。

## 週報②

### 広島県感染症・疾病管理センター(ひろしまCDC) 感染症週報

令和6年第33週(8月12日~8月18日)

#### 2. 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名	計	西部	西部東	東部	北部	広島市	呉市	福山市
一類	0	発生なし	0							
二類	4	結核	4	1		1		2		
三類	5	腸管出血性大腸菌感染症	5		1			4		
四類	2	E型肝炎	1					1		
		日本紅斑熱	1							1
五類	4	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染	1	1						
		梅毒	3					1		2

注) 西部…大竹市、廿日市市、府中町、海田町、熊野町、坂町、安芸高田市、安芸太田町、北広島町、江田島市 西部東…竹原市、東広島市、大崎上島町  
東部…三原市、尾道市、世羅町、府中市、神石高原町 北部…三次市、庄原市  
● 詳しい流行状況は、広島県感染症・疾病管理センターのホームページをご覧ください。 <https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/>

■コメント

1 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)

定点当たり4.17人の報告がありました。昨年はお盆明けに増加に転じており、注意が必要です。手洗い、換気、マスク着用推奨場面(医療機関や高齢者施設等の訪問時)でのマスク着用、発熱等の体調不良時は外出を控えるなどの感染予防対策を心がけましょう。

2 マイコプラズマ肺炎

定点当たり5.71人の報告がありました。多い状況が続いており、注意が必要です。

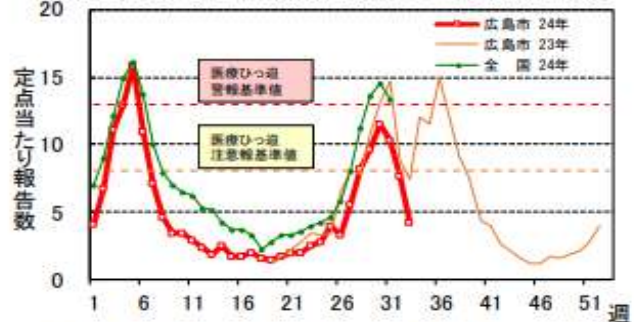
3 手足口病

定点当たり4.59人の報告がありました。手洗いの励行、オムツの適切な処理、タオルの共用を避けるなど、感染予防対策を心がけましょう。

4 腸管出血性大腸菌感染症

今年の累計は20件となりました。夏から秋にかけて報告数が増える傾向があるため、注意が必要です。感染予防のため、加熱が必要な食品は十分に加熱し、生野菜は十分に洗いましょう。また、調理の前、食事の前、トイレの後などは、せっけん流水で手を洗いましょう。

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の流行状況



■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	過去5年間平均(注)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	過去5年間平均(注)	発生記号
インフル	インフルエンザ	-	-	0.15		小児科	ヘルパンギーナ	2	0.12	0.34	
	新型コロナ(COVID-19)	121	4.17				流行性耳下腺炎	-	-	0.03	
小児科	RSウイルス感染症	11	0.65	1.09		眼科	急性出血性結膜炎	-	-	0.03	
	咽頭結膜熱	1	0.06	0.21			流行性角結膜炎	-	-	0.36	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	18	1.06	0.61		基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-	
	感染性胃腸炎	28	1.65	1.71			無菌性髄膜炎	-	-	-	
	水痘	1	0.06	0.11			マイコプラズマ肺炎	40	5.71	-	
	手足口病	78	4.59	1.02			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	伝染性紅斑	-	-	0.01			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	
	突発性発しん	3	0.18	0.20							

急増減	↑	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	↗	前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減
微増減	↘	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減
横ばい	↔	ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ/COVID-19定点数(小児科定点を含む)	29
小児科定点数	17
眼科定点数	7
基幹定点数	7

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

今週(第33週)は、お盆の休診により、報告数が影響を受けている可能性があり、前週(第32週)と適正な比較ができないことから、発生記号は表示していません。

■全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	2	71	40歳代・推定感染地域: 国外、70歳代
3	腸管出血性大腸菌感染症	4	20	30歳代・O157・市外・1人、30歳代・O26・1人、40歳代・O157・2人
4	E型肝炎	1	2	40歳代
5	梅毒	1	100	40歳代